

博報堂フォーサイト ライフスタイル・イノベーション調査 ～②生活者のスポーツ生活実態～

## スポーツ生活は、Watch(視聴)・Go(観戦)から Play(実施)重視へ

最近一年間で何らかのスポーツをした人は、76.9%。

スポーツを Play する回数・頻度、65.7%の人が「増やしたい」。

スポーツを Play (実施) する目的、「良好な人間関係」と「健康・美容」がキーワード。

スポーツ実施の頻度、1位「ヨガ・エアロビ」、2位「陸上・ジョギング」。

博報堂のコンサルティングチーム「博報堂フォーサイト」(後記【※】を参照)では、社会や生活者の価値観の変容やライフスタイルの新潮流が消費行動などにどのような変化を与えるかについて研究する「ライフスタイル・イノベーション調査」を実施しています。

今回は、第2回の調査プロジェクトとして、生活者のスポーツに対する様々な欲求・生活実態をテーマに調査・分析を行いましたので、その結果をご報告いたします。

生活者のスポーツ生活実態を探るため、「Watch (視聴)」、「Go (観戦)」、「Play (実施)」の三つの方向性から、過去8年間の意識の変化をたどったところ、Watch (視聴)・Go (観戦) が減少する一方、Play (実施) を志向する生活者が増加していることが分かりました。2006年の調査では「Play (最近一年間で何らかのスポーツをした)」という人が76.9%にのぼっています。また、生活者が今後に高めていきたい、増やしていきたいと思うスポーツへの関与形態についても、「スポーツを実施する回数・頻度を高めたい」という回答が65.7%で最多となり、ここでもPlay (実施) を希求する実態が明らかとなりました。

従来から存在した欲求から、最近大きくなりつつある欲求まで、生活者がスポーツに対して抱く欲求を8つの視点で分類したところ、「健美欲 (62.6%)」「帰属欲 (66.5%)」などが6割を超える数値を示し、新しいタイプの欲求が目立つようになっていきます。また、スポーツを実際にPlay (実施) する目的を尋ねたところ、「みんなで気軽に参加できること」が最多となり、「良好な人間関係」「健康・美容」などをキーワードとする回答が目立つなど、昔ながらの「スポーツ＝競争、記録、鍛錬」という構図から変化が見られます。

具体的に、生活者が Play (実施) するスポーツとしては、1位「ヨガ・エアロビ」、2位「陸上・ジョギング」の順となりました。世代を超えて行われるスポーツは、始めることが容易で、費用が安価であること、健康に良いことがポイントだといえそうです。一方、Play (実施) に費やす金銭的な費用については、1位「ゴルフ」、2位「スキー・スノボ」という結果になりました。

博報堂フォーサイトは、今回の調査を基に、市場や企業の未来像の洞察や未来シナリオ創造のコンサルティングを提供していきます。なお、調査の詳細は次ページ以降でご説明いたします。

### 【調査概要】

<ライフスタイルイノベーション調査>

- ◇ 調査対象者：15～69歳の男女
- ◇ 調査エリア：全国
- ◇ サンプル数：男性1309人 女性1312人 合計2621人
- ◇ 実査期間：2006年3月
- ◇ 調査手法：インターネット調査

<博報堂生活総合研究所 Hill Net 調査>

- ◇ 調査対象者：Hill Net 登録者
- ◇ 調査エリア：首都圏
- ◇ サンプル数：男女361人
- ◇ 実査期間：2006年11月
- ◇ 調査手法：郵送留め置き調査

なお、一部、HABIT2006(博報堂のオリジナル調査データ)の結果を利用しています。

## 調査データ

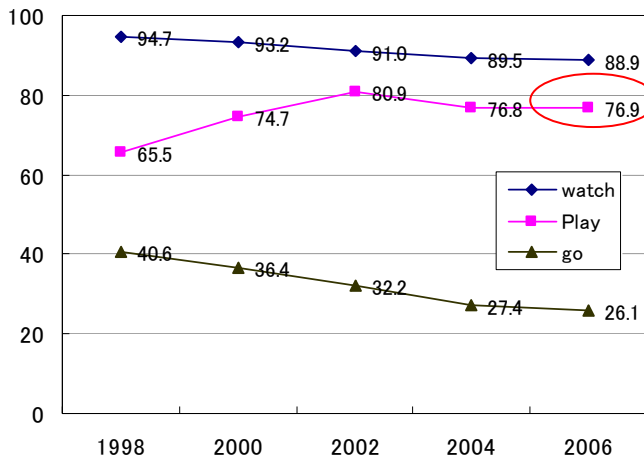
### ■ スポーツ生活の実態、最近一年間で何らかのスポーツをした人が76.9%に。 Watch（視聴）・Go（観戦）が減少する一方、Play（実施）志向の生活者が増加。

生活者のスポーツ生活の実態を探るため、「Watch（視聴）」、「Go（観戦）」、「Play（実施）」の三つの方向性から、過去8年間の意識の変化を探ってみました。

その結果、Watch（視聴）・Go（観戦）が減少する一方、Play（実施）を志向する生活者が増加していることが分かりました。2006年には、「Play（最近一年間で何らかのスポーツをしたか）」の設問を肯定した人は76.9%で、1996年から約10ポイント上昇しています。

生活者にとって、スポーツは「観るもの」から「するもの」へと意識が変化していることが伺えます。

スポーツ生活の実態（単位：%）



(質問内容)

・「watch(視聴)」

普段、TVで何らかのスポーツの実況中継を見るか。

・「Play(実施)」

最近一年間で何らかのスポーツを実施したか。

・「Go(観戦)」

この一年間で何らかのスポーツを競技場で生観戦したか。

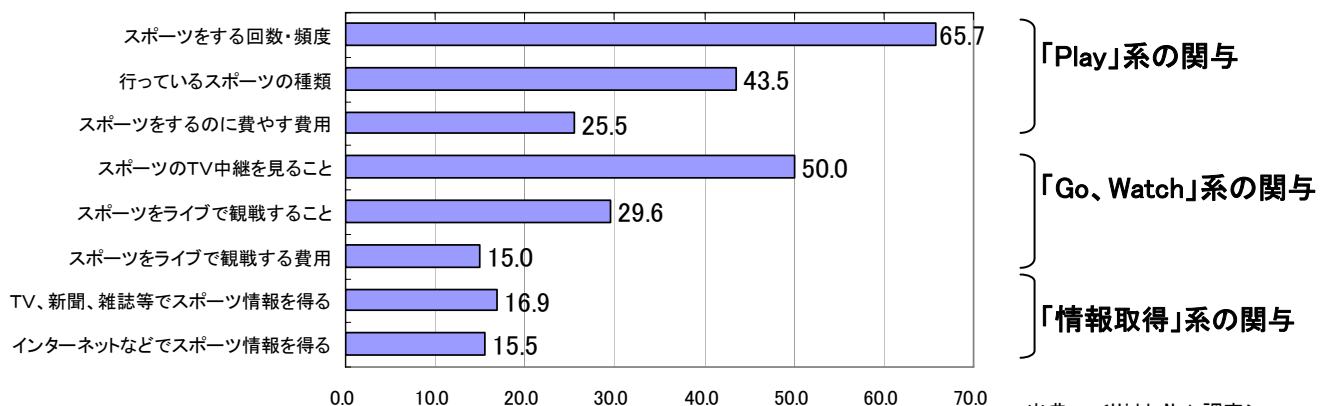
出典：<HABIT2006 調査>

### ■ スポーツをする回数・頻度、65.7%の人が「増やしたい」。 全般に、スポーツへの関与（頻度、種類）を高めたい意向が顕著に。

生活者が今後、高めていきたい、増やしたいと思うスポーツへの関与形態はどのようなものか、ということを経験から尋ねてみました。その結果、「スポーツを実施する回数・頻度を高めたい」という回答が65.7%で最多となり、ここでもPlay（実施）側面からスポーツ関与を望む実態が明らかとなりました。

現代の生活者は、知識や情報を得るよりも自分の身体を動かしてスポーツに関与していく方向性を期待していると言えます。

今後、高めたい、増やしたいと思うスポーツへの関与形態（単位：%）



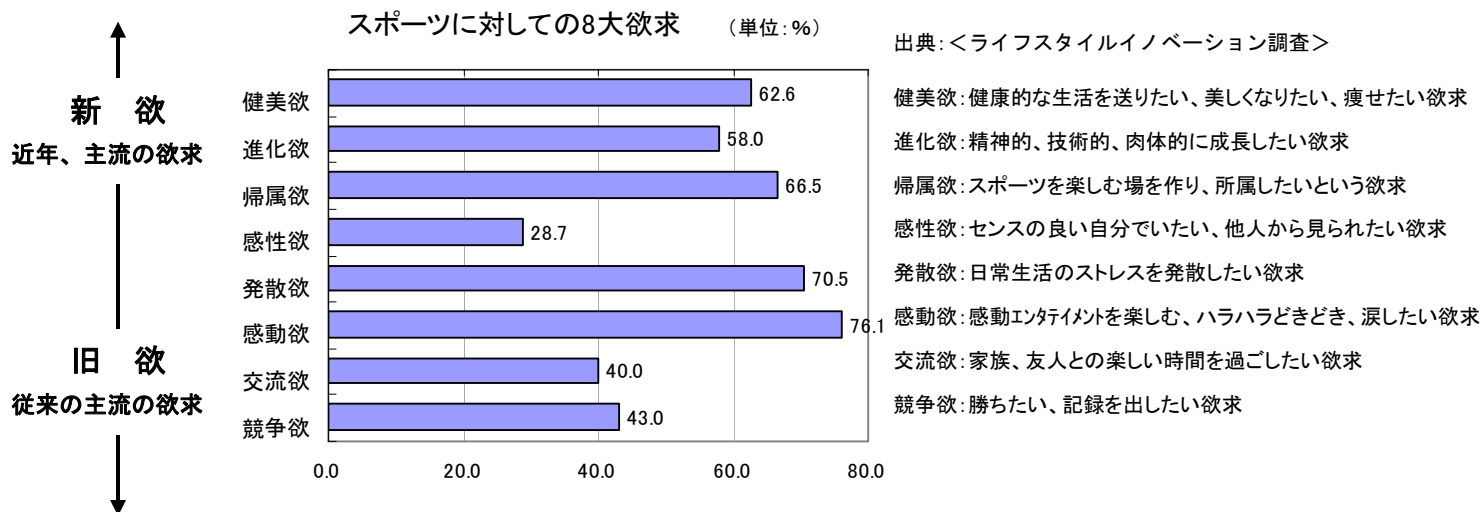
出典：<Hill Net 調査>

## ■ スポーツの8大欲求、「感動欲」が76.1%でトップ。「帰属欲」「健美欲」も6割超える。

従来から存在した欲求から、最近大きくなりつつある欲求まで、生活者がスポーツに対して抱いている欲求を8つの視点に分け、その欲求の有無を尋ねてみました。

トップになったのは、感動やハラハラドキドキを求める「感動欲（76.1%）」でしたが、その他にも、健康や美を求める「健美欲（62.6%）」、自分の所属する場を求める「帰属欲（66.5%）」などが6割を超える数値を示していることが分かります。

スポーツに対する欲求は、健康であったり、コミュニティをつくり帰属する目的であったりと、多様化していることが伺えます。



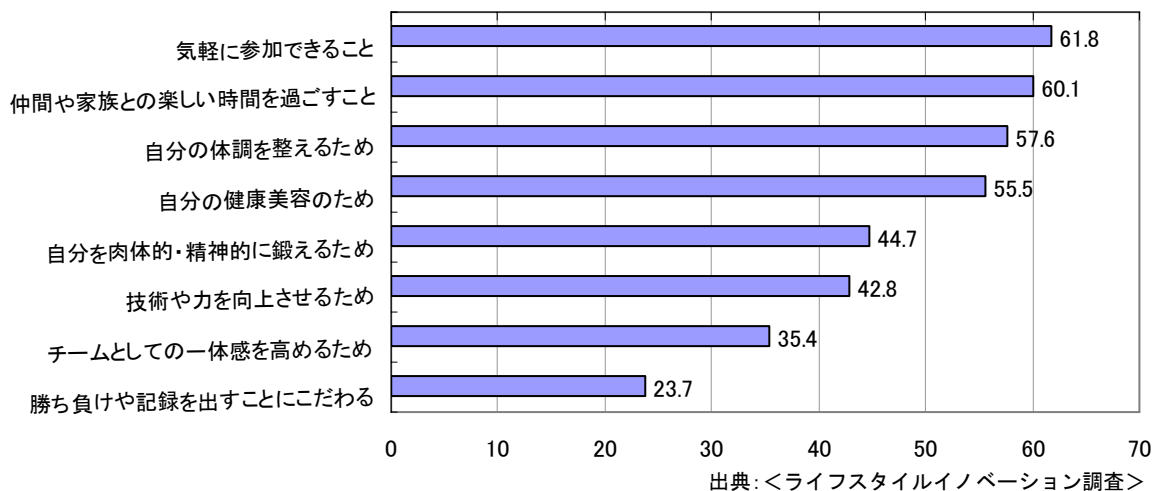
## ■ スポーツをPlay(実施)する目的、「良好な人間関係」と「健康」がキーワードに。

スポーツを実際にPlay(実施)する目的、重視するポイントとして何があるのか、を尋ねてみたところ、「みんなで気軽に参加できること」が61.8%で最多となりました。続いて、「仲間や家族と楽しい時間を過ごすこと(60.1%)」「体調を整える(57.6%)」「健康美容のため(55.5%)」も比較的高い数値を示しています。

一方、「技術や力を向上させる(42.8%)」「勝ち負けや記録を出すことにこだわる(23.7%)」など、トレーニングや勝負をイメージさせるものは低い数値に留まりました。

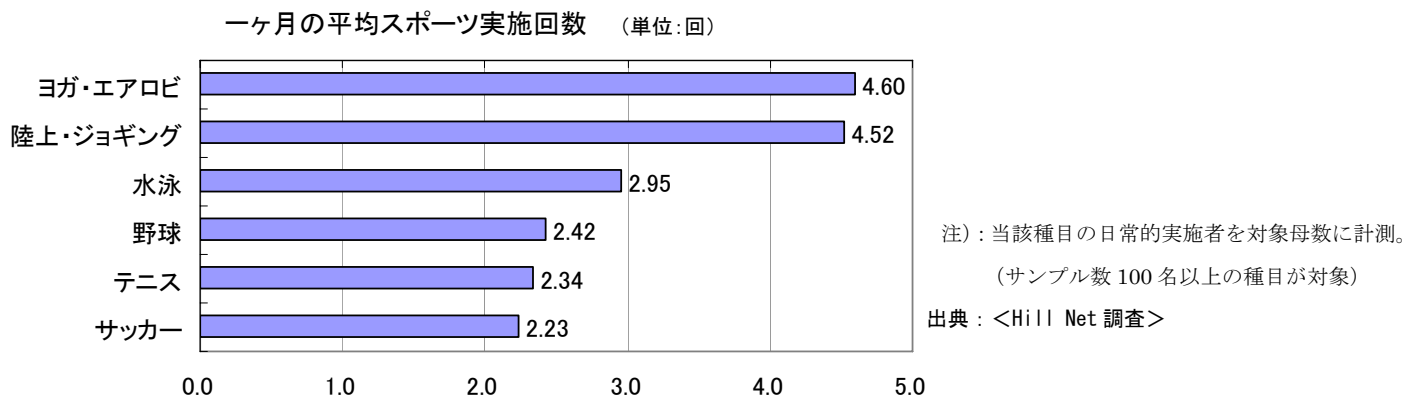
どうやら現代の生活者は、人間関係やコミュニケーションを円滑にすること、健康や体調の管理などをメインの目的としてスポーツをPlay(実施)しているといえそうです。

自分が実際にやるスポーツの目的/重視ポイント (単位: %)



■ **生活者のスポーツ実施回数、1位「ヨガ・エアロビ」、2位「陸上」の順となる。  
気軽に、安価で参加できるスポーツが上位に。**

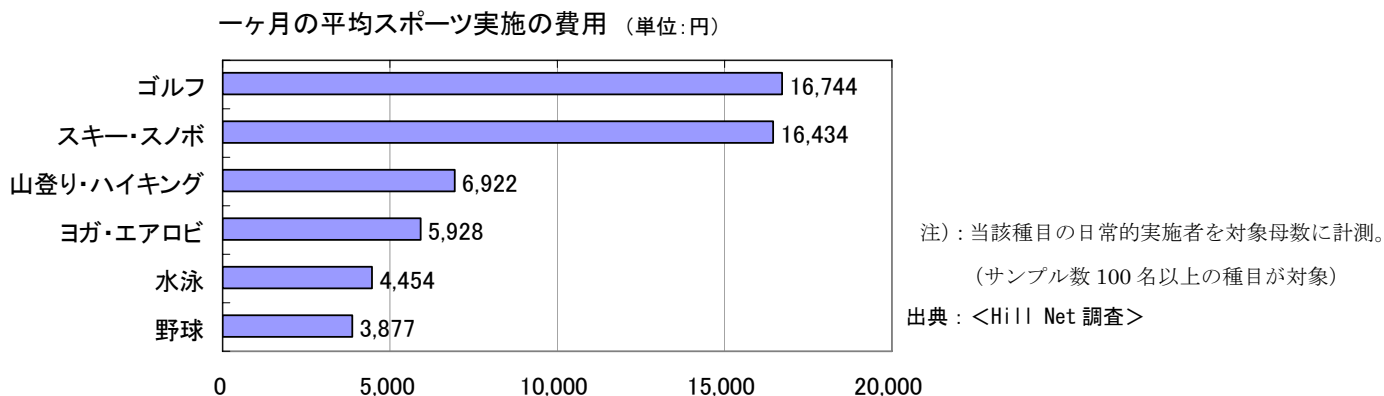
生活者が各種スポーツをどれぐらいの回数・頻度で実施しているのか尋ねてみたところ、1位は「ヨガ・エアロビ (4.60 回/月)」、2位は「陸上・ジョギング (4.52 回/月)」となりました。全体に、生活者に人気のあるスポーツは、誰でもすぐに始められる、費用も余りかからない、健康に良い、ということがポイントであるといえそうです。



■ **生活者のスポーツ実施の費用、「ゴルフ」「スキー・スノボ」などが上位となる。**

生活者のスポーツ実施に費やす金銭的な費用についても尋ねてみたところ、1位は「ゴルフ (16,744 円)」、2位は「スキー・スノボ (16,434 円)」という結果となりました。一方、実施回数で1位だった「ヨガ・エアロビ (5,928 円)」は、実施費用では4位に後退しています。

ゴルフ、スキーなどのスポーツは、実際の実施回数が少なくとも、用具やプレイ費用が高いため実施費用が高いものとなっているのでしょう。



【※】 **博報堂フォーサイトとは**

博報堂フォーサイトとは、市場や企業の未来像の洞察や未来シナリオ創造のコンサルティングを行う専門チームで、「ダイヤモンドサイド・イノベーション」という視点を特徴としています。「ダイヤモンドサイド・イノベーション」とは、イノベーションは技術革新や一時期のブームではなく、それらと連鎖的に呼応し潮流となるような、社会や生活者におけるパラダイム変化であるとし、技術や商品の社会的価値やその市場は、ユーザーにおける受容・普及の過程で自発的に変化し、それが次なるイノベーションを生む形で「未来像」は形成される、という考え方です。